

楽しい ひな祭り

3月3日はひな祭りです
それぞれのクラスでひな人形が作られました。
さて、、、



桃の節句にひな人形を飾るようになったのは？

平安時代、草やわらで作った人形を川に流す「流し雛」が主流でした。
流し雛は子どもの無病息災を願い災いや厄を払いのける意味があったと言われています。
現在も平安時代の名残から、流し雛を行っている地域があります。
室町時代になると、人形を川に流すのではなく飾って祝うようになり、現在のひな祭りの文化に近づいていったそうです。
ひな人形は持ち主を守ってくれるということから、江戸時代の上流階級では嫁入り道具のひとつとして用意されたとも言われています。



ひな祭りに関わりのあるものにはどんな由来があるのでしょうか

- 菱餅の三色の餅は三月の早春の色を表しています。
緑…草や大地 白…雪 桃色…桃の花
- 桜橋は京都御所の左近の桜・右近の橋を模したもの
- ちらしずしは、彩が良く縁起の良い食材を並べてお祝いの席にふさわしい
- ひなあられは、白（雪） 緑（木々の芽吹き） 桃（生命）を表し、子どもの健やかな成長を願う食べ物。雛壇に飾る菱餅と同じ意味合いです。
- 蛤は貝殻が対でないとぴたり合わないことから良縁を意味するそうです。



子どもたちのひな人形



たんぽぽ組の子どもたちの作品
可愛いお手々でぎゅっと握った
その形が人形の姿に。



ちゅうりっぷの子どもたちの作品
透明のコップに染めた和紙を詰め
紙ねんどを丸め顔に仕上げました。
それぞれ個性豊かに！
どれを見ても微笑ましい表情です



こすもす組の子どもたちの作品
折り紙に挑戦！
小さな手が懸命に折っている姿に感動！
おひなさんはキンキラ！！と話す子ども
金屏風を見つめ冠見つめ満足そうです



ばら組の子どもたちの作品
桃の花をイメージしたお皿に並ぶひな人形
薄く平たく伸ばした紙ねんどに染めた和紙を張り
そっとまげて立体的に作ったとか…
ほっこりする人形です



すみれ組の子どもたちの作品
白いコーヒーフィルターを半分折り
その中にティッシュを詰め立体的に
次は着物（色紙）を着せて
お内裏様にはしゃく、お雛様には扇
♪二人並んですまし顔♪



年長ゆり組の子どもたちの作品
半円形の布を二枚縫い合わせ着物に仕上げました。
様々な柄の中から好きなものを選んで
小さく縫うと本物みたいになる！
そう言いながら針を進めていた年長児です。